※　加算補助を受ける場合に必ず施工業者に確認願います。

別紙１

# 既調合しっくい塗り標準仕様書

## １　左官業者

新潟県左官業協同組合(平成 26 年 12 月 31 日に解散した新潟県左官同業会を含む。以下、同様。)主催の「漆喰塗り技能者資格講習会」の修了者立ち会いのもとで施工すること。

## ２　材料、下地、調合、塗り厚、工程及び工法について

### ２－１　適用範囲

本仕様書は､既調合しっくいを内外壁および天井に塗り付けるしっくい塗りに適用する｡なお､屋根は含まない。

### ２－２　材料

(a) 消石灰は、JASS 15 左官工事 6-6 既調合しっくい塗り仕上げによる。

(b) 既調合しっくいは、消石灰にあらかじめ繊維、のり、骨材等を工場で配合したもので、水を加える前の状態で成分表にて質量比 30%以上消石灰を含むものを使用する。

(c) 屋根ひさしのない外壁等に使用する場合は､しっくいに油を混入するかもしくはしっくい表面に撥水材を塗布する等の措置をとる。

(d) 撥水材は、日本建築学会　鉄筋コンクリート造建築物の耐久性調査・診断および補修指針（案)・同解説　浸透性吸水防止材の品質基準に適合するものとする。

(e) 専用下塗り材は既調合しっくい製造業者の仕様による。

(f) 骨材は、公共建築木造工事標準仕様書 15.3.2(c)による。

(g) 水は、水道水を使用する。

(h) 顔料は、特記のない場合は、耐熱・耐アルカリ性の無機質のものを主原料とし、日光の直射や 100℃以上の温度によっても変色が少なく、金物を錆びさせないものとし、実績・信頼できる資料等で品質の確認されたものとする。

(i) 吸水調整材の品質は、公共建築木造工事標準仕様書 15.3.2(g)による。その種類・使用量は既調合しっくい製造業者の仕様による。

(j) その他、材料については製造業者の仕様による。

### ２－３　下地

下地はセメントモルタル塗り下地、せっこうプラスター塗り下地、せっこうボード下地、既存漆喰下地、既存塗装下地、既存ビニールクロス下地とし、下記による。

(a) セメントモルタル塗り下地は、公共建築木造工事標準仕様書 15 章 3 節「モルタル塗り」による。

(b) せっこうプラスター塗下地は、公共建築木造工事標準仕様書 15 章 4 節「せっこうプラスター塗」による。

(c) せっこうボード下地は、公共建築木造工事標準仕様書 5 章「軸組構法（壁構造系）工事」、7 章「枠組壁工法工事」及び 18 章「内装工事」による。

せっこうボード下地に直接既調合しっくいを塗付ける場合は、ボードのジョイントは受け木の上に設け、釘またはタッピンネジの間隔は 100 ㎜とし、ボード継ぎ目にファイバーテープを貼り付け、パテ処理を行う。

(d) 既存しっくい下地にしっくいを塗付ける場合は、汚れや浮き部分を除去した後、製造業者の指定する専用下塗材を塗付け後、施工を行う。

(e) 既存塗装下地にしっくいを塗付ける場合は、汚れや剥離部分を除去した後、製造業者の指定する専用下塗材を塗付け後施工を行う。

(f) 既存ビニールクロス下地にしっくいを塗付ける場合は、既存ビニールクロスを除去後、製造業者の指定する専用下塗材を塗付け後施工を行う。

(g) その他の下地に適用するときは製造業者の仕様による。

## ２－４　調合、塗り厚及び工程

既調合しっくい仕上げの工程，調合および各塗り厚，間隔日数は特記による。特記のない場合は、表１から表４による。

次工程までの日数については、外部環境や乾燥具合によって若干の前後を許容する。日数を短縮する場合、監督員と協議の上、仕上げのひび割れや浮き・剥離の原因にならないよう対策を講じること。

表１　セメントモルタル塗り下地・せっこうプラスター塗り下地

| 工程 | | 材料 | 調合（容積比） | 塗り厚（㎜） | 所要量（kg/m²） | 間隔日数（日） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 次工程までの日数 | 最終養生 |
| 1 | 吸水調整材塗り | 吸水調整材<br>水 | 1<br>3～5 | — | 0.1～0.2 | — | — |
| 2 | 中塗り砂しっくい塗 | 既調合しっくい<br>砂<br>水 | 製造業者の仕様による | 4 | — | 0.5 | — |
| 3 | 上塗り | 既調合しっくい<br>水 | 製造業者の仕様による | 1 | — | — | 3 |

表２　せっこうボード下地

| 工程 | | 材料 | 調合（容積比） | 塗り厚（mm） | 所要量（kg/m²） | 間隔日数（日） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 次工程までの日数 | 最終養生 |
| 1※ | 専用下塗り材塗り | 専用下塗材 | 製造業者の仕様による | 同左 | — | 0.5 | — |
| 2 | 中塗り砂しっくい塗 | 既調合しっくい<br>砂<br>水 | 製造業者の仕様による | 4 | — | 1 | — |
| 3 | 上塗り | 既調合しっくい | 製造業者の仕様による | 1 | — | — | 3 |

※ １に先立ち吸水調整剤塗りを行う場合の所要量等は、表１に準ずること。

表３　既存しっくい下地、既存塗装下地

| 工程 | | 材料 | 調合（容積比） | 塗り厚（mm） | 所要量（kg/m²） | 間隔日数（日） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 次工程までの日数 | 最終養生 |
| 1 | 汚れ、剥離部分除去 | — | — | — | — | — | — |
| 2 | 専用下塗り材塗り | 専用下塗材 | 製造業者の仕様による | 同左 | — | 0.5 | — |
| 3 | 中塗り砂しっくい塗 | 既調合しっくい<br>砂<br>水 | 製造業者の仕様による | 4 | — | 1 | — |
| 4 | 上塗り | 既調合しっくい | 製造業者の仕様による | 1 | — | — | 3 |

表４　既存ビニールクロス下地

| 工程 | | 材料 | 調合（容積比） | 塗り厚（mm） | 所要量（kg/m²） | 間隔日数（日） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 次工程までの日数 | 最終養生 |
| 1 | 既存ビニルクロス除去 | — | — | — | — | — | — |
| 2 | 専用下塗り材塗り | 専用下塗材 | 製造業者の仕様による | 同左 | — | 0.5 | — |
| 3 | 中塗り砂しっくい塗 | 既調合しっくい<br>砂<br>水 | 製造業者の仕様による | 4 | — | 1 | — |
| 4 | 上塗り | 既調合しっくい | 製造業者の仕様による | 1 | — | — | 3 |

## ２－５　工法

(a) 材料の練り混ぜ

材料の練り混ぜは、既調合しっくいは施工前日までに水で練り混ぜ、当日まで空気に触れないようにする。

(b) 吸水調整材塗り

吸水調整材塗りは、下地をよく清掃してから、下地の吸い込みのばらつきをなくすよう、だれや塗り残しのないように塗り付ける。

(c) 専用下塗り材塗り

専用下塗り材を製造業者の指定する厚さで塗付け、こてで押える。

(d) 中塗砂しっくい塗り

中塗り砂しっくいを、塗り付ける。

セメントモルタル塗り下地・せっこうプラスター塗り下地で、既存下地にクラックが多い場合、耐アルカリ性ガラス繊維ネットの使用について監督員と協議する。

(e) 上塗り

中塗砂しっくいを塗り付けた後，中塗りが半乾燥状態のとき、水引き具合を見計らい上塗りを行う。

上塗りは、最初にこすりつけるように薄く下付けする。下付け後直ちに上付けを行い、水引き具合をみながら平滑に金こて押えする。

６　養生

(a) 塗り作業中は、できる限り通風をなくす。塗り付け後は水引き具合を見て徐々に適度の通風を与え、塗り面を自然に乾燥させる。

(b) 施工地の最低温度が３℃を下回る場合は、施工を中止する。

(c) 夏季の外部施工は必ずシート掛け養生をし、下地には適度な散水養生を行う。

(d) 雨天時の外部施工は行なわない。やむをえず施工を行う場合は、壁面に雨が当たらないように適切な処置を行う。

(e) 最低施工後３日間は、外部のしっくい面に雨が当たらないようシート養生する。

(f) ヘアークラック程度は、タッチアップにより補修を行う。